

History

キラリを再発見

御前崎市域初の発掘調査遺跡



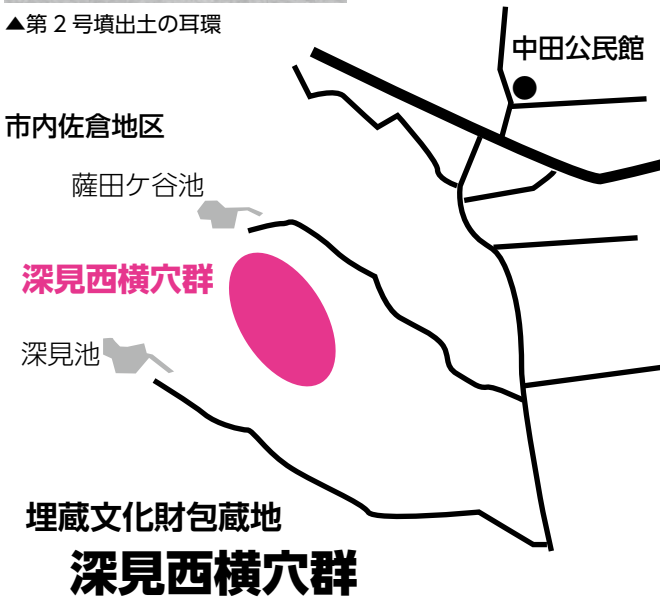
▲深見西横穴群第2号墳の正面



▲深見西横穴群の現状



▲第2号墳出土の耳環



深見西横穴群は、宮内の深見ヶ谷の奥にあり、標高50m程の丘陵の南斜面に2基の横穴が立地しています。

前回紹介した薩田ヶ谷横穴群と共に、昭和39年に御前崎市域で初めての発掘調査が行われました。

第1号墳の平面形はやや崩れた胴張方形で、断面形はドーム状をしており、第2号墳は平面形がフラスコ形で断面はドーム状となっています。また、第1号墳には閉塞石や敷石に使われていたとみられる河原石が数多く散乱しています。

第1号墳からは奈良時代(8世紀)前半の須恵器が3点と耳環が1点、第2号墳からは古墳時代後期(7世紀中頃)の須恵器3点と平安時代(11世紀頃)の灰釉陶器の底部が1点出土しています。これらの出土遺物の年代から、横穴の造営が古墳時代に始まり奈良時代前半に終わっていると推測されますが、その後、平安時代にも何らかの理由で人がこの横穴に入っていることが分かります。

照会 社会教育課 ☎0548③1129

中部電力は、5月20日から22日にかけて、非常災害対策実働訓練を、東海エリアを中心とした巨大地震が発生し、地震や津波で掛川市とその周辺地域の配電設備が大きな被害を受けたという想定で実施しました。

浜岡原子力発電所では、送電線から送られる外部電源が喪失し、所内に設置している非常用ディーゼル発電機なども機能を喪失したことを想定して、発電所周辺および発電所構内の配電線を利用した電源の復旧訓練が行われました。

訓練では、原子力館に復旧対応の拠点となる「前進基地」を設営し、中部電力や協力会社の社員らが、配電線被害状況の確認や、復旧方法の検討および復旧工事の訓練を行いました。

Atomic

暮らしと原子力

配電設備被害を想定した
対策実働訓練を実施



▲訓練を実施する中部電力社員ら



発電所構内では、5号機の電源を復旧するため、配電線の一部を追加設置し、5号機の電源設備へ接続する訓練を実施しました。

中部電力では、今後も訓練を重ねることで、災害発生時に速やかに対応できる体制を検証し、災害対応力の強化に努めていくとしています。